令和８年度　研究主題に迫るための手立て

大田区立池上第二小学校

	低学年分科会	中学年分科会	高学年分科会	特別支援学級分科会
目指す児童像	○身近な人と関わりながら、自分の思いや考えを表現しようとする子	○自分や他者のよさに気付き、地域や周りの人・もの・ことにすすんで関わったり、自分の思いや考えを表現したりしようとする子	○自分や他者のよさを生かしながら、最後まで粘り強く取り組んだり、自分の考えをすすんで表現したりしようとする子	○身近な人やものと関わることを楽しむとともに、それらのよさを受け入れながら、創り出そうとする子
単元導入の工夫	【生活科】 ○自分の地域にはどのような人が住んでいるのかを調べたり、どのようなものがあるのかを見付けたりする活動を取り入れる。 ○すすんでものづくりに取り組むことができるようにするために、相手意識を明確に設定する。	【総合的な学習の時間】 ○自分たちの地域のよさや課題を知る活動を取り入れる。 ○すすんで問題を解決することができるように、児童の興味関心のある内容や自分事として捉えることができるような課題を設定することができるようにする。	【おおたの未来づくり】 ○地域の人の願いを知ることを通して、課題を解決しようとする意識を高める機会を設定する。 ○自分たちの地域のよさを想起する活動を取り入れ、地域の課題を解決するためのコンセプトを設定することができるようにする。	【生活単元学習】 ○児童の生活や学習経験から、関心がもてるような課題を設定する。 ○取組の過程やゴールを視覚的に捉えられるようにし、活動への関心をもつことができるようにする。
学習の展開の工夫	○学習の見通しをもつために、単元の流れが分かるような掲示物を作成し、進捗状況を確かめることができるようにする。 ○ものづくりの楽しさを味わうために、満足できるまで繰り返し制作できるようにする。	○学習の見通しをもつためにワークシートを活用して進捗状況を確かめることができるようにする。 ○課題設定の場面では、現代社会が抱えている課題などを意識して、児童の興味関心のあるものを取り上げ、多角的にテーマを設定することができるようにする。	○学習の見通しをもつためにワークシートを活用して進捗状況を確かめることができるようにする。 ○地域のよさに気付き、他者に伝わるようにするための工夫について考えながら、ものづくりに取り組むことができるようにする。 ○提案→助言→修正のサイクルを繰り返しながらものづくりに取り組むことができるようにするために、試行錯誤する時間を十分に確保する。	○繰り返し取り組む場を設定しながら自信がもてるようにし、活動への意欲が継続できるようにする。 ○活動の流れや目指す事柄を視覚的に捉えやすいようにする。 ○児童の実態に応じて個別の課題やスモールステップの活動過程を設定し、安心して取り組むことができるようにする。
話し合いや発表の場の工夫	○交流や発表を通して、自分たちのよさや友達のよさに気付くことができるようにする。 ○発表の場を複数回設けることで、見付けた課題を修正し、次に生かすことができるようにする。	○交流や発表を通して、自分たちのよさや友達のよさに気付き、伝えることができるようにする。 ○発表の場を複数回設けることで、見付けた課題を修正し、次に生かすことができるようにする。	○交流や発表を通して、自分や友達のよさについて伝え合い、ものづくりや地域の創生に生かすことができるようにする。 ○発表の場を複数回設けることで、見付けた課題を修正し、次に生かすことができるようにする。	○聞く場面でのよい態度や言動について例示し、話し合いにつながる態度を養う。 ○選択して答えたり、自分の言葉で伝えたりする等、児童の実態に応じて話合い活動に参加できるようにする。 ○話型等を例示しながら伝えたいことが伝えられるようにする。
ＩＣＴの活用	○学習の過程を残し、自分たちの成長について振り返ることができるようにする。	○学習の過程を記録して振り返ったり、他者との協働やまとめ、振り返りに活用したりする。 ○自分の考えを表現するためのツールとして活用することができるようにする。	○学習の記録を残したり、他者との協働やまとめ、取り組みの改善、振り返りに活用したりする。 ○自分の考えを相手に明確に伝えるためのツールとして活用することができるようにする。	○学習の過程を記録して残し、自分たちの取組の様子を振り返ることができるようにする。